

専門科目選択科目の履修のヒント(2年次以上向け)

工学システム学類では、2年次以降、幅広い分野の専門科目選択科目が開講されています。学生の皆さんには多くの科目の内容を学んでほしいところではありますが、その一方で、1年間で履修登録できる科目数は通常 45 単位までであるため（夏季・春季休業中の集中科目を除く）、履修登録できる専門科目選択科目は自ずと限られます。どの専門科目選択科目を履修するかは皆さんの選択に任されていますが、次のような考え方もできますので、ご一読ください。

1. まず、履修要覧別表第1で指定されている科目群の履修計画を立てる。

履修要覧別表第1を見ると、専門科目選択科目にも、必ず単位を取らなければならない科目群があることがわかります。例えば、2025年度入学生で「知的・機能工学システム専攻」の場合、次の通りです（自分の主専攻に適宜置き換えて読んでください）。

- | | |
|---------------------------------|---------|
| (A) FG11, FG21 で始まる科目（設計・システム系） | 6単位以上 |
| (B) FG12, FG22 で始まる科目（材料・バイオ系） | 1単位以上 |
| (C) FG13, FG23 で始まる科目（実務系） | 1単位以上 |
| (D) FG17, FG24, FG25 で始まる科目 | 16 単位以上 |

卒業のためには、これらの科目と、FG(工学システム概論除く)、FF2—FF5, GB2—GB4, FA00, FJ で始まる科目とあわせて、40 単位以上単位を取る必要があります。専門科目選択科目は、49 単位まで、卒業のための単位として認められます。

まずは上の(A)—(C)として、どの年次にどの科目を履修するか、4年次までの長期的なプランを立ててみてください。上記(A)—(C)の科目数は決して多くはありません。

2. 自分自身の将来のキャリアパスを考える。

将来、自分が就きたい職種を考えてみてください。どんな科目を履修していれば、自分の強みになるのでしょうか？ 自分の専門の方向性が決まれば、履修する専門科目選択科目は次のように決まってきます。

- ・ 専門に関する科目はできるだけ網羅的に履修する。
- ・ 専門から少し離れた科目でも、シラバスを見て、面白そうなら履修する。
- ・ 数学科目は様々な分野で基礎になるので、積極的に履修する。

3. 4年次の履修のススメ

4年次になると、必修科目が「工学者のための倫理」「卒業研究 A」「卒業研究 B」の3科目だけとなり、卒業のためにこれら以外の選択科目はほとんど取らなくてもよい人も多
い
です。研究室に配属されると、卒業研究も始まり、ゼミの担当なども回ってくるので、その準備などに時間をとられることもあります。しかしながら、実は時間割に余裕ができる4年次の間こそ、自分の専門の幅を広げるチャンスです。以下のことを考えてみてください。

- ・ これまで履修していない科目の中に、自分の卒業研究に関係のありそうな科目はないか？
- ・ もともと興味はあったが、開講時間が重なっていたため履修出来なかった科目はないか？
- ・ 他主専攻の科目で、先々、自分の専門の幅を広げられそうな専門科目はないか？

様々なことに興味を持って学ぶことができるのは学類生の特権なので、ぜひいろいろな科目にチャレンジしてください。

なお4年生で一定の条件（A率が68%以上など）を満たせば、大学院開講の講義科目の一部も履修できるようになります。学類生の立場で大学院の科目を受講して単位を修得した場合、筑波大学の大学院に進学した後、その科目の単位が認定されます。とはいえ、自分の専門から少し離れた内容を学ぼうとする場合には、専門的な大学院科目よりも、入門編に近い学類の科目の方が適しています。また、学類開設の科目は、学類生のときにしか卒業のための単位にならないことにも注意してください。